

私の好きな奈良の朝、奈良の夜

NPO 法人文化創造アルカ理事長、編集者、奈良市観光大使
倉橋みどり氏

火曜午餐会6月第2例会を21日、当部5階大会議室にて開催した。

倉橋氏は結婚を機に山口から奈良へ。奈良の朝と夜に感じる美の世界を美しい画像で紹介、また奈良町活性化への魅力ある取り組み、未来の奈良に対する思い等を語った。

奈良とのご縁

奈良とご縁ができて奈良の歴史を知り奈良が大好きになった。実際現場に立って自分の感性で奈良を感じることで知ることができた奈良の良さをたくさん発信したい。

「知識満載型」ではなく 「感性重視型」へ

少し早起きすれば見えてくる景色がある。早朝のウォーキングがおすすめ。誰もいない静かな東大寺、二月堂。時刻通りに鳴る興福寺の鐘。奈良のお寺は開門すぐに行くといよい。

洗い立ての空気の中で神様が降り立ったような春日大社。唐招提寺～薬師寺～喜光寺～西大寺の蓮の花をめぐるロータスロード。迫力ある飛火野の鹿寄せ。こういった朝ならではの魅力は奈良の人がもっと自慢していいことだと思う。またホテルで頂く美しい朝ごはんも早朝の楽しみの一つで宿泊せずとも朝食だけ食べに行けるところもある。

奈良は平城京の夕暮れが美しい。ねぐらへ帰るツバメの姿は

シャッターチャンス。宗教学者の山折哲雄先生が「奈良の空は日本一広い」とおっしゃったことを実感できる。半円状の空が見えて奈良時代にもどったような感覚だ。夜の大仏堂や奈良太郎の愛称で親しまれる奈良時代の鐘楼なども美しい。奈良に思いを寄せることで歴史の人物を身近に感じ、自分も歴史の一部となっていくような感覚を覚える。また、奈良の夜で素晴らしいのは各お寺で行われる観月会。特に唐招提寺の中秋の名月。本堂が開いて仏様もわたしたちと同じようにお月様をご覧になる。

奈良は日本酒（清酒）発祥の地。奈良の日本酒と奈良ワインも魅力。

奈良町～きたまち・ならまち・ 京終・高畑～という魅力

都が平安京に移った後も奈良には社寺が残り、南の都、祈りの町として祈りの聖地になった。最初は大いエリアだった奈良町を4つ（きたまち・ならまち・京終・高畑）に分けてそれぞれの魅力が発信されるようになってきている。大成功した燈花会に続いて魅力あるイベント「きたまちといろ」

「ならまち遊歩」「京終さろん」「高畑街道まつり」などが生れている。きたまちに多い「カレー店」はスパイス～漢方薬～正倉院（正倉院はきたまちにある）につながることで若い人を中心に人気を集めている。京終は歴史ある璉城寺、高畑は不空院の地藏尊など個性的なエリアがならまちを取り囲むようにして存在している。4つのエリアをまとめて巡る「奈良町見知ル」というイベントも昨年から始まったので、地元のみならずも普段行けない所や歴史ある住宅などを訪れて奈良の歴史を知ってもらいたい。

奈良の歴史に触れることは、 よりよく生きる力をもらうこと

奈良の大仏をつくった人に思いを寄せることで歴史上の人物を近く感じる。そんな奈良の力を信じ、具体的に発信することで奈良に恩返しをしたい。頂いた命のバトンを磨いて次の世代へ伝えたいという思いはきっと未来をよくするし、自分自身の生きる力になると信じて、これからも奈良で活動していきたい。



ならまち遊歩：2022年8月20日(土)～28日(日)

きたまちといろ：9月9日(金)～15日(木)

京終さろん：毎月1回第三木曜19時～21時

高畑街道まつり：例年7月ごろ

奈良町見知ル：11月6日(日)～13日(日)